

平成30年度 第3回 長浜市子ども・子育て会議 要点録

日 時 平成31年2月22日（金）午前9時30分～午前11時15分
場 所 長浜市役所3階 3-Bコミュニティルーム
出席者 【委員】西川委員、大橋委員、富岡委員、野田委員、長委員、前田委員、
吉井委員、山路委員、池田委員（9人）
【委託会社】株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所：内田、菅原
【事務局】健康福祉部次長：長谷川、幼児課：大音、野村、小川
子育て支援課：村崎、益田、前畷、涌井
欠席者 井関委員、井委員、曾我委員、柴田委員、古池委員、熊谷委員（6人）
傍聴者 なし

《開会》

事務局

それでは定刻になりましたので、ただ今から「平成30年度第3回長浜市子ども・子育て会議」を開催します。

本日の傍聴者はおられませんが、「附属機関等の会議の公開等に関する要綱」に基づき、本会議は公開となっていますのでご了承願います。

まず初めに、健康福祉部次長よりあいさつ申しあげます。

《次長あいさつ》

続きまして、前回に引き続きまして、第2期長浜市子ども・子育て支援事業計画の策定についてお手伝いいただきます「株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所」から内田さま、菅原さまにお越しいただいております。

事務局

本日、6人の委員からご欠席の連絡をいただいておりますが本会議は「長浜市子ども・子育て会議規則第4条第3項」に規定する過半数の出席がありますので、成立することをここにご報告いたします。

では、次第2の議事に入りたいと思います。

ここからの進行は西川会長をお願いいたします。

会長

皆さんおはようございます。

前回皆様にご審議いただいたアンケート調査が実施され、それから結果が出てきたわけですが、こういう方のこういう考えといった、いわゆるクロス集計はまだ出されていないので、これから説明いただくことの中から、こういうことを

もっと描き出せたらいいというところをお考えいただきながら、説明をお聞きいただきたいと思います。年度末の忙しい時期に入り、限られた時間の中ではありますが、よろしくお願いします。

では、議事に入ります。

第2期長浜市子ども・子育て支援事業計画策定にかかるアンケート調査（速報）について事務局から説明をお願いします。

事務局

委員の皆様には事前にアンケートの速報案として資料を送付しておりますが、本日改めまして速報概要版を配布しておりますのでご覧ください。

ジャパン総研

《資料3-1、3-2（当日配布のもの）により説明》

会長

ありがとうございます。
率直な感想やご意見などありますか。

委員

この結果の中で、校区ごとの大きな特色など出ていますか。

ジャパン総研

校区ごとの分析はこれからになります。10ページ、どの地域にある施設を利用しているか、どの地域にある施設を利用したいかという設問において、校区ごとにどういった特徴が出ているかということを見ていきながら、皆様の校区ごとのお考えもお伺いしていきたい。子育てに関するお考えのところで、校区ごとに分析をさせていただきたいと思っています。

会長

放課後児童クラブは校区を越えて利用はできないので、これは校区ごとのニーズをしっかりと把握したいですね。

委員

11ページ、放課後の過ごし方の問い方についてですが、就学前児童の保護者に対して、低学年と高学年での使い方について聞いているということなのでしょうか。

ジャパン総研

就学前調査票でいきますと11ページ、小学生調査票は7ページに放課後児童クラブについて聞いています。放課後の過ごし方について、小学校に入

ったらどのような場所で子どもを過ごさせたいかという問いで、「放課後児童クラブ」と回答した方についての結果が概要版11ページに記載しています。ここで注意いただきたいのが、前回調査では、就学前調査については5歳児の保護者の方のみにたずねていましたが、今回はより長期的なニーズをみたいということで、就学前児童の保護者のすべての方を対象にお伺いしました。そのため、前回に比べて、あまり現実的でない方のご意見も含まれているので、今回調査の放課後児童クラブの利用ニーズの割合が高くなっているのではないかとありますが、1人の保護者が低学年、高学年それぞれで放課後児童クラブを利用したいかどうかをたずねる形となっています。

会長

就業率が高まってきているという印象を受けます。就労されている方がどのような施策を望んでおられるかというのは、喫緊の課題であると思うので、それが描き出されるといいのかなと思うが可能でしょうか。

ジャパン総研

もちろん、クロス集計で可能です。

会長

フルタイムと、パートも含めるのかどうかというところもあるが、具体的には、就労されていない方よりも就労されている方のほうが、困り感というか子育てに関するニーズは高いと思うので、そのあたりを描き出せると、成果につながるのではないかと感じました。

委員

このアンケート調査は全国でもやっているとおっしゃっていたが、全国でやられている割合はどれくらいですか。全国の集計は出るのですか。

ジャパン総研

この調査は国からの義務のため全国の全ての自治体を実施することになっていて、そのうち当社では200自治体様で実施しております。国の数値については、まだ集計は予定されていませんが、各自治体からの報告結果を把握することである程度データがみられると思います。時期的にはおそらく来年度末くらいになるのではないかと考えられます。

会長

子どもが就学するまでに重視すること（していたこと）について速報概要版14、15ページの結果をみて、まあこのような傾向かなという気がします。

「さまざまな体験をすること」が各園でも言われていますが、このあたりの割合が伸びてくるということは、「読み・書き・計算」の見える部分だけの教育ではなく、教育幼児教育が浸透して本来の全人格的な幼児教育の推進につながるのではないかと思います。この「さまざまな体験をすること」は、子ども・子育て事業のニーズ調査に限らず、今後いろいろなアンケート調査をする場合にぜひ入れていただきたい項目で、親の思いを常にチェックしていただき、幼児教育の意味が市民にどれだけ浸透しているのか、また、それを重視していくことで遊びを通じた体験が大事かということがわかれば素晴らしいと思います。

委員

感想です。12ページ、親の思いについて、「ふるさとを愛し、誇りをもって生きる人」が少ないのは残念で長浜市はそんなものなのかと思いました。長浜で生まれ育った人が、この項目への回答が最も少ないのがすごく残念であり親の意識がこうであったら、子どもの意識も育つはずがない。長浜を誇りに思うことがないまま外へ出て行ってしまふ、外へ出てしまったまま帰ってこない、ということにつながっているのではないか。地域に誇りをもって、地域の行事や文化を受け継いでいってほしいと思う一方で、統計の数字を見てすごく残念な思いがする。教育委員会でこども憲章をつくっているが、その根底にあるものは、長浜を愛し、長浜に誇りを持ち、長浜に生まれたことに自信をもって生きること。そのような子どもたち、大人をつくっていかないといけないのに、一番回答が少ないというのは残念です。地域のことを大切にしろさいという家庭は少なく地域はうとうしいというような考えの家もあって、それが今風なのかと思いました。

会長

結局負のスパイラルですね。地域に愛情がもてないから地域から離れる、そうすると世帯の人数が減っていき、過疎化していき、市が成長していけない、サービスが悪くなってしまう、と、悪循環です。なんとかこれを解決する方策を検討していかなければいけないですね。

委員

「ふるさとを愛し・・・」のところ、基本的に、若い年代層の自治会の人たちは、昔からの地域のお祭りとかしきたりがわずらわしい。地域の行事とか伝統的なものを子どもに教えていく場合は、さまざまな体験を積極的にさせることが大事で、そういうことをしていければ、もう少し（回答率が）上がるのではないかと。

それからもう1点。各自治会の人数も減って高齢化してきている中で、行政が求

める役員の数を維持できない状況が出てきているのに、行政は出してもらわなければ困るという姿勢である一方で、それぞれの自治会に強制的に入らなくてもいいということが行政側からはっきりと出てきているがそれはおかしいと思う。官民が一緒になってやっていかないといけないと思います。

委員

テレビで、住みたい市1位はどういうところかという番組をやっていた。子育て環境がよいところが1位となっていて、ではどういう子育て環境がよいのかということで市の特徴が紹介されていたが、16ページ、17ページにあるような公園等の子どもの遊び場の整備でした。私は長浜市には公園は多いと思っていましたが、ボール遊びなどができる公園が少ないということを行っているのかなとも思う。やはり身近なところに公園があることが大事だということをそのテレビ番組を観て改めて思いました。その番組では、お母さんが「公園デビュー」をする公園に保育士さんなどが出ていっていろいろな支援をしているというものでしたが、そのような公園が身近にないというのがこの項目が高くなる要因なのか私は長浜市には公園は多いと思っていましたが、お母さんたちは、まだまだないと思っておられるのでしょうか。

委員

ロータリークラブでこども議会やっているが、近くに公園がほしいという意見が圧倒的に多いです。

委員

広場じゃなくて公園がほしいということでしょう。

委員

「子育てに関して相談したい先」4ページについて、「保健センター」や「子育て関連窓口」の割合が高いが、やはりお母さん方は専門的な知識を求めているのだなということがわかりました。ネットでいろいろ調べられるが、明確な答えがほしいのかと思います。また、公園ももちろんですが、外でも遊べ、雨が降ったら中でも遊べ、かつ相談もできてという、「デパート的」なものを望んでいらっしゃる傾向があるのではないかと感じました。

会長

母親の年齢別、父親の年齢別の思い、自由記述も含めて、どういう傾向があるのか、ぜひクロス集計からみていきたいですね。ひとり親家庭の方も答えていると思うので、そういう方が、相談相手なのか、施策なのか、何を求めているのか

を知りたいですね。

子どもの貧困とあわせてアンケートをとられている自治体では貧困家庭と言われる世帯ではどのようなニーズがあるのかと分析することもできますが、今回の長浜市のアンケートでは難しいので、年齢別や、配偶者の有無別にみていけるとよいのではないかと思います。

感想でもヒントになることがたくさんあります。

委員

アンケート調査結果の中で一番興味深かったのが4ページ、5ページです。配偶者については、「相談したい先」よりも実際に「相談している先」のほうが高く、つまり配偶者に相談したくない人が1割いるということになりますね。相談しても仕方がないということでしょうか。このアンケートに答えた若い世代の配偶者（夫）がどんな考えをしているのか非常に興味があるところです。

就学前調査では保育士や幼稚園教諭、小学校調査では学校の先生に相談したいと答えている人が非常に多く、この実態を学校現場にぜひおろしていただきたいと思います。小学校については、大変忙しい教育現場で、実際相談をしっかり受けられるのかなといろいろ感じ、示唆に富んだアンケートだと拝見しました。

委員

私もこの結果を見て保護者は、身近に相談する相手がいなくて孤独なのかなと思いました。相談に乗ってもらえるような場所がもっと必要なのかなと思います。

委員

「相談できる人がいない・ない」という人もいるので、その人たちはどうしているのか、どういう思いをもっているのかというのを知りたかったところです。

会長

幼稚園教諭、保育士、小学校の先生に対して、相談したいという希望をもっているけれどできていないという現状があります。この結果を受けて、人員が足りないかもしれないけれどしっかり保護者と関わってくださいと言うだけでなく、相談窓口をつくるなど、行政としても何ができるかを考えていくべきではないかと思います。

委員

就学前調査では「相談したい先」で保育士や幼稚園教諭が多く49.4%、「相談

している先」では34%、それに対して小学生ではぐんと減っていて半数くらいの方が小学校の先生に相談したいと思っているのに実際に相談しているのは2割。これは現状を表していると思います。働き方の問題なのか、資質の問題なのかはわかりませんが、学校になると、子育てから教育の概念が強くなる気がします。小学校の現場にも保育士さんと同じような子育て目線の人員が必要なのではないのでしょうか。

会長

園は子育て支援センターの機能を持っているので、相談しやすい環境があるかもしれません。小学校でそういうところをつくるのは無理かもしれないし、担任の先生が担うことも難しいので、例えば、相談者を置くとか、行政が補助を出すとかこのあたりを担保していくことを将来的に考えていかないといけないかもしれないですね。

委員

確かに、学校は若い先生が増えてきて、半分は20代から30代前半です。こども園は保育士が足りていないし担任になる人は苦勞している。また、保護者の相談に専門にあたる人がいないと聞いている。子どもたちのよりよい成長のために、できるだけ相談してもらえる学校でありたいと思っているので、そのためには人員がほしいけれども、人手が足りていない状況で、ハード面の充実などお金をかけてもらわれないといけないことを求める声が大きいのではないかと思います。

会長

人材不足というご意見が出ていますが、それは長浜市だけの話ではないと思います。

委員

政府が保育士の不足解消のために取り組んでいるというのが、実際はどうなのでしょう。

会長

保育士であればキャリアアップ研修というのがあり、すべて受けると、管理加算ということで給料が4万円上がります。

委員

知人が利用している保育所では、保育士がよく変わるが、どこに問題があるのだろうか。

委員

しんどい、人間関係が大変、給料が安い、いろんなことが学生のイメージの中に浸透していて、保育士になろうとしている学生が減っているのが現状です。あこがれる保育士と現実とは違っていると、学生たちは思っているようです。

委員

中学校のときに担任した子たちで、保育士になりたいと言っていた子たちは成人して保育士になっています。ただし、私立とか非常勤とかが多いです。子どもは好きだけれど、担任になるとしんどいから、非常勤でいい、という子が多い。それと、保育士と幼稚園教諭の免許が両方必要な認定こども園にはなかなか行けない現状があります。

委員

免許は公立の認定こども園はそうだが、私立ならどちらかの資格だけでもよいとなっています。男性の保育士もいますが、保育士の給料では生活ができず、1年は働くけどどこか別のところ選ぶなど、企業と保育士の求人が来ると企業を選んでしまいます。保育士のフォローアップ研修で給料を上げるという話も、3年、7年とある程度年数が経ってからの話なので何年後ではなく、初任給からどんと上げてほしいと思います。

会長

人材不足は長浜市だけの問題ではないが、多くの場合、人材不足の問題は「正規ではない」ということです。学生は正規での就労を希望しているはずなので、卒業して、まず短時間のアルバイトに就職したいとは思わないです。園で求めているのは正規ではない場合も多いと思うので難しい問題です。

事務局

長浜市の保育所等の正規は、国の基準を満たしています。補っているところは臨時職員です。潜在保育士の発掘もしていますが難しいです。

会長

答えは出ないが、今回の調査で一番大事なのは学校や園の先生に求めていることをどうやって施策として具体化していくかということ。そのあたりを考えていただきたいと思います。次回3月に会議があるが、ニーズ調査による量も出てくるのですか。

ジャパン総研

3月の段階ではアンケートからみえてくる結果の報告になり、それに基づいた事業量の算出は次年度になる予定です。

会長

ニーズ量と確保量はもう少し先ということで皆さんご理解いただきたいと思います。

他にいかがですか。

委員

これは全部日本語で調査し、外国人にはアンケートを配っていないのですか。例えば多言語で対応ができれば回答率も上がるのではないですか。

会長

前回の会議でも、ネットを使ってアンケートの回答をとというのも出ていたように思いますが、それはできないということでしたかどうか。

事務局

今後、マイナンバーなどの技術が普及浸透していけばできるのではないかと考えています。今回は無理でしたが、ネット調査は集計作業も便利になるし、技術的に可能になってきているのであれば、次回には検討していきたいと考えています。

会長

いろいろな国籍をもつ方への対応や回収率を上げるための方策については引き続き検討していく必要があるでしょう。

クロス集計についてもいろいろとご意見をいただいたので、ぜひ報告書のほうを期待しています。

それでは次「子育て支援団体等のヒアリングの実施について」事務局より説明をお願いします。

事務局

《資料4により説明》

会長

なにかご意見ご質問はありますか。

今回は外部というか民間対象になっていますが、先ほどの学校現場の話もあったので聞いた方がいいのではないのでしょうか。

事務局

今回民間さんを対象にした理由の一つとしては、公立のご意見については委員の皆様からいただけるので、それ以外のご意見をいただけていないので、ということと考えております。しかし、現場の声をとらえていくことが大事だという意見をいただきましたので、公立の園等も対象として検討したいと思います。

会長

いろいろなご意見を聞くことは大事なので、子ども、子育て世帯に関わっている団体はできるだけたくさん実施していただきたい。できる限り民間の方の顔を見て、話を聞いていただいて、そのままの声を反映させていただけたらと思います。

委員

次回の3月22日まで1か月しかないが、それまでに日程調整をして、ヒアリングして、集計しないといけないとなると、物理的に無理ではないですか。

事務局

委員さんも団体推薦の方は4月に入るとメンバーが替わる可能性がありますので、年度が変わる前に報告したいと思い計画しました。やはり3月の会議に報告するのは難しいかもしれません。申し訳ありませんが、委員さんが替わられてもヒアリングの結果は報告したいと思いますので、次年度に報告ということでお願いしてよろしいですか。

会長

今回の報告については、アンケート結果のクロスを含めた報告書のみで、ヒアリングに関してはまた後日ということでしょうか。委員が変わったとしても、丁寧にやってほしいと思うのでそれでよいと思いますが、皆さんよろしいですか。

(異議なし)

委員

就労しているお母さんが増えていて、時短の制度があるにはあるが、時短で帰ると言っても帰れないというお母さんもいるという話を聞きます。ヒアリン

グでは、長浜市内の企業はそのあたりどの程度できているのかしっかりと聞いていただきたい。大きな企業や公務員はしっかり取れると思うが、せめて時短が取れているのかどうか、企業に聞いてほしいです。

事務局

今回は、支援者からの目線からお話をお聞きしたいということで、子育て支援団体を対象としています。時短勤務など、事業所の状況については、他課（商工振興課）の調査結果が活用できるかもしれないので聞いてみます。

委員

子育て支援課だけでなく、市役所の中には健康推進課の乳幼児健診があると思うので、ヒアリングが無理ならアンケートでもいいので、そこでも聞いてほしいと思います。保健師さんは乳幼児健診で、子どもさんに関わると思うので、子育てコンシェルジュや保健師さんに聞くということをしてよいのではないですか。

事務局

今回の団体ヒアリングでは想定しておりませんが、庁内の関係課に聞く機会がありますので、そこで聞いていきたいと思います。

会長

アンケートは細かく聞くよりも、現状と課題を面と向かって聞くとたくさん意見が出てくると思います。そこでキーワードも出てくるかもしれません。それこそが重要だと思います。

例えば予測ですが、私は、別の子育て支援の研究会などで助言に入ったりしますが、いろいろ取り組みをやっているのに、来てほしい人が来ない、本当に必要としているはずの人がどこも利用していないのが課題だといつも話題にあがります。これはどこにもあてはまる課題かもしれません。皆でもっと知恵を出し合える環境が必要ではないかと思います。現状と課題、今何が起こっているのかをヒアリングから把握することが大事だと感じます。

丁寧にヒアリングしていくということなので、若干報告は遅れますが、ヒアリングの結果は委員会で報告いただくということによろしいですか。

委員

子育て支援団体ということですので、今回は学校関係はアンケートをしないということですね。それから、ここでいう児童館とはどこのことですか。

事務局

今回は保育所、認定こども園、幼稚園とさせていただきます。学校からの現場の声としましては、委員としてお繋がりいただいているので、ぜひこの会議の場でご意見をお聞かせいただけたらと思います。

児童館については、民間の「チャイルドハウス児童館」と「小谷児童館」のことです。

会長

ではまた、団体ヒアリングとアンケート結果、関係課ヒアリングの報告をお願いします。

次、「その他」について、事務局からお願いします。

事務局

《今後のスケジュール（案）について、資料5により説明》

（内容）

- ・委員の皆様には今後4回の会議にご出席いただき、ご審議いただきたい。
- ・3月22日に予定している会議では、ニーズ調査結果報告書として、クロス集計や分析を踏まえ、最終版アンケートの報告と、計画の大きな構成案をお示ししたい。
- ・H31年度第1回は6月中に計画の骨子案、事業量の検討を予定しており、第2回は9月、10月あたりを予定している。第3回は来年1月あたりに予定しているパブリックコメントの結果を踏まえての検討を予定している。
- ・関係課でも協議をさせていただく。

会長

ありがとうございました。委員の任期はいつまででしたか。

事務局

任期は平成32年1月17日までとなっていますので、できる限り任期中に目途が立つように進めていきたいと思っております。

会長

次回はクロス集計等の結果の報告になります。ヒアリングについてはその後ということで、ご理解いただきたいと思っております。

今日、委員の皆様からいろいろご意見をいただきましたが、ここで意見が出てい

なくとも、クロス集計の中で見たほうがよいものについては、ジャパン総研さんにはプロの目から、積極的にクロス集計を出していただいて関わっていただきたいと思います。期待しています。

では、進行を事務局にお返しします。

事務局

長時間にわたり、ありがとうございました。

閉会にあたり子育て支援課長よりごあいさつ申し上げます。

子育て支援課長

(お礼のあいさつ)

(閉会)